

日本口腔衛生学会ニュースレター

Vol.18

NEWS LETTER



2026年4月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会
ニュースレター第18号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: gakkai37@kokuhoken.or.jp HP: <http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 山本龍生 編集 広報委員会



第75回 日本口腔衛生学会 直前特集!!

沖縄コンベンションセンター

2026年5月22日(金) ~ 24日(日)

プログラムは、WEBページをご覧ください <https://jsoh.jp/75/>

大会長
杉原 直樹
東京歯科大学衛生学講座
主任教授

第75回 日本口腔衛生学会学術大会

2026年5月22日(金)~24日(日) 沖縄コンベンションセンター

実行委員長 石塚 洋一 東京歯科大学衛生学講座 准教授
準備委員長 佐藤 涼一 東京歯科大学衛生学講座 講師

伝統
と
継承

大会長からのご挨拶

【大会長】 杉原直樹 (東京歯科大学衛生学講座)

このたび、2026年5月22日(金)～24日(日)の3日間にわたり、第75回日本口腔衛生学会学術大会を沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)において開催させていただくこととなりました。日本口腔衛生学会の大会長を引き受け、大変光栄であると同時に、身の引き締まる思いですが、本学会の学術大会を少しでも実り多いものにするため、準備委員会委員一同、一丸となって現在、鋭意準備を進めているところです。

さて、日本口腔衛生学会は1952(昭和27)年に設立された伝統ある学会であり、第1回学術大会が1952年9月18日に東京歯科大学で開催されてから74年間の経過いたしました。学会ホームページにも記載があるとおり、本学会の理念は口腔衛生学の進歩と発展を図り、国民の健康と福祉の増進に寄与することを目的として設立された学会です。この間、多くの口腔保健関係者の方々がこの理念に沿って本学会を支えてきました。私自身も大学院入学と同時に日本口腔衛生学会に入会し、学会発表やシンポジストとして多くの経験を積ませていただきました。これは継承していかなくてはなりません。そのような点から、本学術大会のメインテーマは「伝統と継承」といたしました。

学術大会の企画プログラムといたしましては、特別講演をはじめ、教育講演、日本歯科医学会会長懇話会、シンポジウム、ミニシンポジウム、ポスター発表、ランチョンセミナー、認定研修会、情報交換会等々、多数の企画を用意しております。140題以上の演題登録および80社以上の各種協賛をいただきました関係者の皆様には感謝申し上げます。

沖縄の5月末は、平均気温25℃前後で湿度が高く、蒸し暑く感じる日が多くなることが予想されます。演者・座長・会議出席を含めまして、参加者のドレスコードは軽装(ノーネクタイ・ノージャケット、できれば「かりゆしウェア」)でのご参加をお願いします。

参加される皆様にとって実りのある大会になるよう、準備を進めております。多くの口腔保健の関係者にご参加いただけることを期待しております。

皆様の本学術大会へのご参加を沖縄で心よりお待ちしております。



シンポジウム①

歯科におけるリアルワールドデータ活用の過去・現在・未来 — 政策立案から住民の健康まで

座長：山本龍生（神奈川歯科大学歯学部）
竹内研時（東北大学大学院歯学研究科）

近年、医療分野におけるリアルワールドデータ（RWD）の活用は急速に進展しており、歯科領域においてもその重要性が一層高まっています。レセプトデータや電子カルテ、DPC、PHRなど多様なデータは、従来の無作為化比較試験では捉えきれなかった実臨床の実態や長期的アウトカムの解明に寄与します。本シンポジウムでは、歯科RWD活用の第一線で活躍する専門家が、口腔と全身の関連、治療介入の効果評価、さらには政策立案への応用に関する最新の知見を共有します。加えて、歯科電子カルテの標準化や相互運用性といった課題にも焦点を当て、今後の研究データ基盤整備や研究者間の知識共有、学際的連携の方向性などについて多角的に議論する予定です。データに基づきこれからの歯科医療の発展と社会実装の可能性を皆さんと考える貴重な機会です。ぜひご参集ください。

シンポジウム②

口腔保健に関するWHO 必須医薬品の有効活用を考える — UHC 達成を踏まえて—

座長：小川祐司（新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野）

本シンポジウムでは、近年WHOの必須医薬品リストに歯科関連薬剤が追加された動向を踏まえ、口腔保健推進にどのようなインパクトをもたらすのかについて、3名の演者より具体的な事例をご紹介します。

まず、香港のChu Chun Hung先生には、アジア諸国において歯科関連製剤を効果的に活用するためのガイダンス構築に向けた取り組みをご紹介します。竹原祥子先生には、アフリカ諸国で歯科関連製剤へのアクセスを確保するためのデリバリーモデル構築事業についてお話しいたします。遠藤真美先生には、トンガ王国において歯科関連製剤の追加を後押ししたMalimaliプログラムの活動をご紹介します。

総合討論では、ユニバーサル（オーラル）ヘルスカバレッジの達成に向けた今後の展開と、本学会が果たすべき役割について議論を深めます。

シンポジウム③

禁煙支援教育の実践と挑戦：歯科衛生士の専門性を活かして

座長：尾崎哲則（日本大学）
小島美樹（梅花女子大学）

歯科衛生士は歯科疾患の予防を通じた全身の健康増進という専門性から、禁煙支援の提供者として期待されています。昨年の禁煙推進委員会企画シンポジウムでは、歯科衛生士の禁煙支援教育の充実が議論の焦点となりました。そこで今年度は、歯科衛生教育に携わる先生方におかれ、禁煙支援教育の現状と課題を共有するシンポジウムを企画いたしました。まず、山村有希子先生（千葉県立保健医療大学）より、歯科衛生士の禁煙支援に関する業務内容および学修経験の現状について報告いただき、続いて、細見 環先生（関西女子短期大学）から、歯科衛生教育カリキュラムにおける禁煙支援について提言いただきます。埴岡 隆先生（宝塚医療大学）からは、歯科衛生士向け禁煙指導・支援教育プログラムをご紹介いただきます。その後、大森智栄先生（梅花女子大学）より、病院歯科における多職種と連携した周術期禁煙支援についてお話ししていただきます。最後に会場の皆さんと討議できればと考えています。皆様のご来場をお待ちしております。

シンポジウム④

沖縄県のう蝕状況の変遷を通して口腔保健を考える

座長：古田美智子（九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野）
森木大輔（宮崎県健康増進課）

本大会開催地でもある沖縄県は、全国的に幼児・学童期のう蝕が減少している中でも依然としてう蝕が多くなっています。この現状を少しでも改善し、う蝕が多い県からの脱却を目指していくために、本シンポジウムを通して、その方策について考える機会にしたいと考えております。

シンポジウムでは3人の先生にご登壇していただきます。相田 潤先生からは健康格差に着目し、沖縄のう蝕の多さについて学術的な視点からご解説いただきます。また現場からの報告として、行政歯科医師の与那嶺 亮先生（沖縄県）と嘉手納一彦先生（那覇市）からは、沖縄県の歯科保健施策のこれまでの取り組みと現状を整理していただき、沖縄でのう蝕予防の取り組みとして、集団フッ化物洗口の普及に向けた実践や、その過程での工夫や課題についてお話しいただきます。

沖縄県の事例を通して、全国にも通じる口腔保健の課題と今後の方向性について考えることができればと思っております。

シンポジウム⑤

伝統を継ぎ，未来を拓く口腔衛生学 — 若手・中堅からの提言 —

座長：入江浩一郎（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学分野）
片岡宏介（徳山大学大学院医歯薬学研究部口腔保健福祉学分野・予防歯学分野）

日本口腔衛生学会では，基礎・臨床・疫学といった多分野の研究者が協働し，国民の健康増進という共通の目標に向けて研究を推進してきました。この「多様性」と「協調」の精神は，本学会の大きな特徴であり，発展を支えてきた原動力です。第70回大会以降は，次世代を担う若手・中堅研究者が互いに刺激し合い，新たな学問的融合を創出することを目的に，「異分野融合シンポジウム」を継続的に開催しています。第6回となる今回は，「伝統を継ぎ，未来を拓く口腔衛生学」をテーマに，基礎・疫学・臨床の各分野から4名の先生方にご登壇いただき，口腔と全身の健康をつなぐ最前線の研究成果と将来展望についてご講演いただきます。さらに，学会主催情報交換会後には，若手研究者の交流を目的とした懇親会（5月23日18:30～，少し手狭になりますが当日参加もあり！札束握りしめてお越しください！）をこの度も予定しています。沖縄の地で交流を深め，ともに次の一步を描きましょう。

シンポジウム⑥

歯科衛生士に求められる業務タスクシフト・タスクシェアを考える

座長：植野正之（埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科）

我が国においては，人口の高齢化や歯科疾患の疾病構造の変化により，歯科医療ニーズが変化しているのみならず，診療に従事する歯科医師の高齢化・数の減少などに伴い歯科衛生士に求められる業務も多様化しています。また，令和7年度の骨太方針では，少子高齢化と労働人口の減少に対応すべく，医療・介護分野における「タスクシフト・タスクシェア」が明示されています。歯科保健医療分野では，在宅や施設の療養者の口腔健康管理のニーズが高まってきており，歯科衛生士の歯科保健指導の内容も多様化・高度化しています。

このように，歯科衛生士を取り巻く環境は大きな転換点にあります。より専門的な業務を行う歯科衛生士が歯科医療を効率的に提供する観点から，今後の歯科衛生士に求められる業務タスクシフト・タスクシェアを考えることは非常に重要なテーマであることは衆目の一致するところですが，そこでシンポジウムでは，このテーマについての論議を深め，共通認識を高めるだけでなく，実際の臨床現場等で実施できるきっかけになれば幸いです。

シンポジウム⑦

これからの8020運動の展開を考える

座長：小林慶太（公益財団法人 8020 推進財団）

上條英之（東京歯科大学歯科社会保障学 / 公益財団法人 8020 推進財団）

8020 運動に関連して 2024 年の歯科疾患実態調査では 8020 達成者が 61.5% で 2036 年までに 8020 割合を 85% とする目標が新たに設定された。また、8020 運動推進のための施策が進められ、最近の歯科診療報酬の改定においても歯科口腔疾患の重症化予防が推進されている。

ところで、8020 推進財団では、2024 年から 2026 年にかけて千葉県柏市、埼玉県幸手市で 80 歳の者での歯の残存状況や口腔の機能の状況について調査を行った。今回のシンポジウムではこの調査の結果を報告する。

また、今後の 8020 運動の展開として日本が旗振り役となってきた UHC の推進を図る一環として、世界保健機関では 2030 年に向けての口腔保健に関するグローバル戦略が策定され、人口の高齢化が進む各国での歯科口腔保健を進めるにあたり、わが国の 8020 運動が何らかの形で寄与することが期待される。

このため、今回のシンポジウムではいままでの対応とこれからの課題について、幅広い視点で意見交換を行うことで今後の 8020 運動の展開について考えていくこととする。

シンポジウム⑧

学術的・社会的インパクトを生む研究とは： 口腔衛生学の未来を拓く論文発信

座長：竹内研時（東北大学大学院歯学研究科）

竹下 徹（九州大学大学院歯学研究院）

口腔保健が全身の健康に寄与するという認識が世界的に広がる中、口腔衛生学分野の研究者には、学術的価値にとどまらず社会的インパクトを伴うエビデンスの発信が求められています。本シンポジウムでは、基礎・疫学・臨床研究の各分野で国際的に卓越した成果を発信し続ける専門家を迎え、独創的な着想をいかに国際的に評価される成果へと昇華させるか、その具体的戦略を共有します。トップジャーナルへの投稿戦略、引用される研究の創出、国際的な研究の潮流、さらには政策や社会への波及を見据えた発信のあり方などについて、多様な観点から考察を深めます。本セッションを通じて、学術的・社会的にインパクトのある研究の本質を共有し、学会全体の発信力強化と分野の持続的発展につなげる契機になればと考えています。若手研究者を含む多くの参加を歓迎します。

予防歯科臨床におけるエビデンスの整理と将来構想

座長：玉木直文（鹿児島大学）
岩崎正則（北海道大学）

日本口腔衛生学会では、設立当初から「予防歯科」を主軸の一つとして活動してきた。近年では、国民にもこの予防歯科という言葉が広く浸透してきたように感じられる。歯科診療における保険算定においても、「初期の根面う蝕」という病名や、「歯周病重症化予防治療」という「予防」が含まれる項目が新設されるなど、「予防歯科」につながる概念が広く認知されるようになった。

しかし、エビデンスに基づく真の「予防歯科」など、まだまだ不明な点が多いため、予防歯科臨床委員会では、この「予防歯科」を見つめ直すこととした。そこで本シンポジウムでは、3人のシンポジストで「う蝕」「歯周病」「口腔機能低下症」それぞれの予防に焦点を当て、予防に関する現状をエビデンスに基づいて把握し、予防や管理に関する現状と今後の課題についてまとめることとした。さらに、中長期的な将来構想を踏まえて、多面的なディスカッションを行う機会とした。

THP 指針に基づく事業所での 歯科口腔保健サービスの普及啓発について、事例をもとに考える

座長：安田恵理子（安田労働衛生コンサルタント事務所／日本産業衛生学会産業歯科保健部会）
大山 篤（株式会社神戸製鋼所東京本社健康管理センター／日本産業衛生学会産業歯科保健部会）

事業場における労働者の健康保持増進のための指針（THP 指針）では、具体的な労働者の健康保持増進措置として、運動指導、メンタルヘルスケア、栄養指導、口腔保健指導、保健指導の5つをあげています。事業者はこれらの中から事業場の特性を踏まえて、適切な内容を行う必要があります。

しかし、令和3年に実施された「労働安全衛生実態調査」を見ると、THP 指針に基づく口腔保健指導の実施事業場は1.3%にすぎず、他の措置と比較して実施率が低いのが実状です。

そのため、厚生労働科学研究の資料「職場での歯と口の健康づくりを進めている事業場の事例集および歯と口の健康づくり事業を進めるための評価指標（令和6年3月）」に良好事例を掲載しました。

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202322003A-sonota1.pdf

本シンポジウムでは、上記良好事例の取りまとめをした各担当者がそれぞれの事例の特長を紹介し、THP 指針に基づく事業場での歯科口腔保健事業の円滑な実施や今後の展開についての討論を行う予定です。

データ・エビデンスと実践・政策の好循環を目指して： 大学・行政・歯科医師会等の連携による好事例から 歯科公衆衛生専門医の役割を考える

座長：深井 穂博（深井健康科学研究所）

佐々木 健（北海道オホーツク総合振興局北見地域保健室）

本学会でも、政策科学に関する研究発表が増えてきました。公衆衛生的アプローチには、エビデンスに基づく健康政策の立案・実施・評価（PDCA）が求められます。本シンポジウムでは、データに基づくエビデンスを大学等（アカデミア）が提示し、それらをベースに行政や歯科医師会との連携により活用・展開している先駆的な事例を紹介し、効果的な健康政策の在り方と本学会の歯科公衆衛生専門の役割を再認識することを目的に企画しました。紹介する事例は、(1) アカデミアの立場から静岡社会健康医学大学院の佐藤洋子先生に静岡県国保データベース（SKDB）等の調査データを用いた効果検証を事例、(2) 行政の歯科保健担当者の立場から江戸川区健康部の長優子先生に九州大学の健康関連統合データベース「LIFE Study」に自治体として参加し、事業分析を行った事例、(3) 歯科医師会の立場から愛知県歯科医師会の外山敦史先生に行政・外部研究機関の協力のもとに県歯科医師会が行った調査研究事例です。

| 各種お知らせ |

各種事業などについてご案内申し上げます。詳細は、学会誌第76巻第2号をご参照ください。
なお、学会誌は第76巻第1号より電子化しております。（特別号を除く）

**学会認定医・専門医・指導医の新規・更新申請につきましては2026年度よりオンライン申請に移行しました。
申請フォーム等の詳細は学会ウェブサイトにてご確認ください。**

学会認定医申請・更新（2026年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般社団法人日本口腔衛生学会認定医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（オンライン申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで）

学会専門医申請・更新（2026年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般社団法人日本口腔衛生学会専門医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（オンライン申請期限：9月30日（水）まで）

学会指導医申請・更新（2026年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般社団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（オンライン申請期限：9月30日（水）まで）

学会認定地域口腔保健実践者の申請（2026年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般社団法人日本口腔衛生学会地域口腔保健実践者制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（水）まで（消印有効））

認定歯科衛生士専門審査制度の申請・更新（2026年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般社団法人日本口腔衛生学会認定歯科衛生士制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで（消印有効））

歯科衛生士委員会企画シンポジウム開催について

- 日 時：2026年5月23日（土）14時30分～16時
場 所：沖縄コンベンションセンター第3会場（B5-7会議室）
内 容：「歯科衛生士に求められる業務タスクシフト・タスクシェアを考える」
演 者：尾崎哲則，犬飼順子，野口有紀

第31回一般社団法人日本口腔衛生学会認定研修会

- 日 時：2026年5月22日（金）17時～19時
場 所：沖縄コンベンションセンター第1会場（A1会議室）
内 容：1. 認定制度新規申請・更新上の注意
2. 「食育推進基本計画に基づく栄養と歯科口腔保健の連携」講師：清野富久江
3. 「豊かな味覚を育てるために」講師：植野正之

第18回一般社団法人日本口腔衛生学会指導医研修会

- 日 時：2026年5月23日（土）11時20分～12時20分
場 所：沖縄コンベンションセンター第4会場（B2会議室）
内 容：1. 「指導医に期待すること」講師：山本龍生
2. 「認定医・専門医・指導医制度について」講師：嶋崎義浩

学術大会のプログラム等については大会ウェブサイトをご確認ください。
大会ウェブサイト [URL: https://jsoh.jp/75/](https://jsoh.jp/75/)

編 集 後 記 広 報 委 員 会 よ り

今回お届けするニュースレター18号は、広報委員会の恒石美登里先生、遠藤眞美先生、高柳篤史の3名で担当いたしました。本号は、第75回学術大会の直前号のため、シンポジウムなどの企画に焦点を当てご案内させていただきました。今回の学術大会開催地である沖縄は、きれいな景色、歴史や文化など、さまざまな魅力が詰まった都市でもあります。是非お楽しみいただけますと幸いです。本ニュースレターは、学会の皆様はもちろんのこと、より多くの人々に本学会の取り組みを紹介するためのツールとして、ご利用いただけることを願っております。

（高柳篤史）